



## 期末テストが終わって

「シ〜ン」と静まりかえる教室（別に誰もいないわけではない）

「カツカツ、カツカツ」と響くシャープペンの音

「ス〜ス〜」と聞こえる寝息（そんなことはないか。）

そう、ただいまテスト中。1 問、1 問と戦う生徒達。

その集中して、考える姿は勇ましい。

「キュルキュルキュル」やばい、お腹の音が鳴ってしまうんではないかという恐怖感と戦うテスト監督。その姿は情けない。

キ〜ン、コ〜ン、カ〜ン、コ〜ン。

チャイムと同時に漏れ出る、「あ〜」でもなく「お〜」でもなく、表現のしようもない第一声が教室を包む。

ひとつ、ひとつのテストが終わるたび、そのボルテージは上がって行く。そして、最後の教科のテストが終了。

「終わった〜」どういう意味で「終わった」のかは別として…

さて、ここからが私たち教員の戦である。いわゆる採点業務。

「〇〇、今回頑張ったんじゃない」

「あ〜惜しい、あとちょっとで 100 点なのに」

「え！この問題間違えたの？」

「え〜、この字読めないよ〜」

採点中の先生方は結構独り言が多い。

積み重なった、解答用紙に無言では立ち向かえない。

そして、一步教室を出ると…

「先生！〇つけましたか？」（って今テスト終わったばかりなんですけど…）ちなみに社会は1 クラス 2 時間程度かかります。

「先生！僕何点でしたか？」（そんなのひとりひとり覚えてられません。）

「先生！俺、今回結構自信あるんですよ！」（ってその自信はどこから来るのかな？）

などなどと、質問攻めにあうことも…

でも、それってテストに向けて頑張ったあrawれでもあるんでしょね。いつもより、手応えがあってこそだと思っんです。

採点していると、本当にテストに向けた努力って、解答用紙から伝わってくるんですよ。たとえ、同じ点数でも、たいした違いのない点数（周りの人や、過去の自分のものと比べて）でも、その違っってすごい大きいんだと思います。

同じように、テスト返却が始まっていますが、ただ点数を見て終わりにしない努力というのも大切なんだと思います。

これからの家庭学習にも期待したいと思います。

追伸 放課後、グラウンド・体育館に元気な声が戻ってきました。テストから解放されたその気持ちを、残り少ない部活動へ！

元気に活動する、そのはつらつとした姿。いつ見ても良いものです。

明日（土曜日）は、野球部の2 回戦以降が行われます。